

レシピNo.OKF-0041

okadaya original 【100-15】 キッズ&ベビー

背守り刺しゅうのベビー肌着



材 料

表布：110cm幅×70cm
バイアステープ(ふちどり)11mm幅：105cm
綿テープ9mm～12mm幅：80cm (20cm×4本)
25番刺しゅう糸：適量

出来上がりサイズ

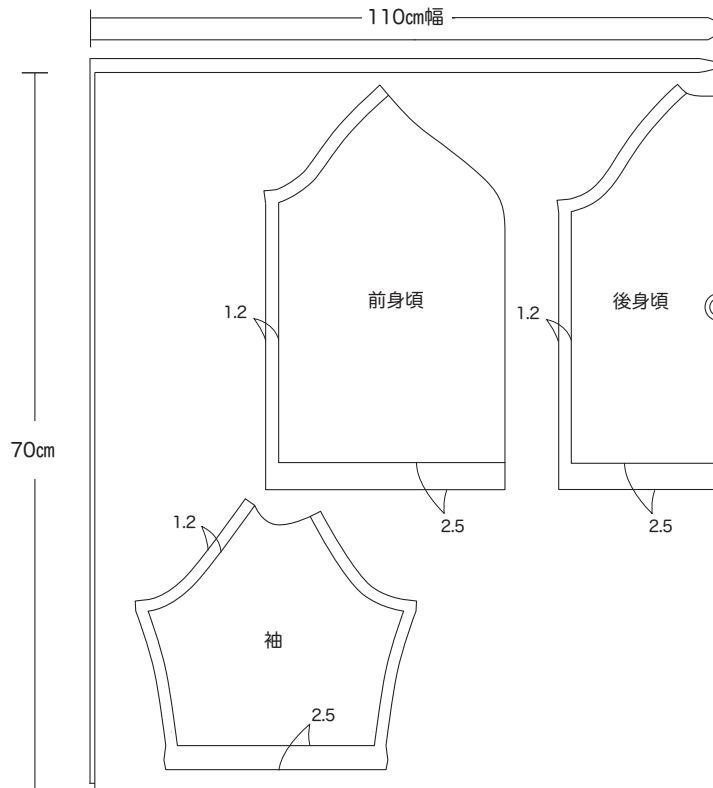
着丈(後中心)35cm、胸囲56cm
袖丈23cm

おすすめ生地

・ダブルガーゼ ・スモースニット

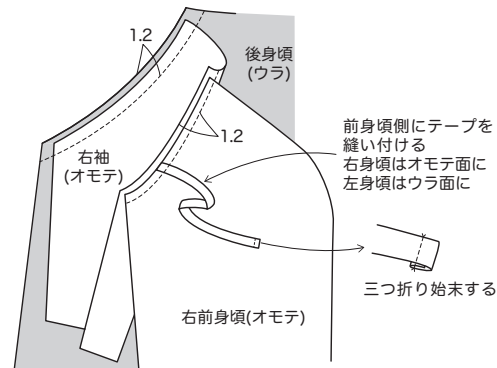
裁断図

単位：cm、縫い代は含まれています。

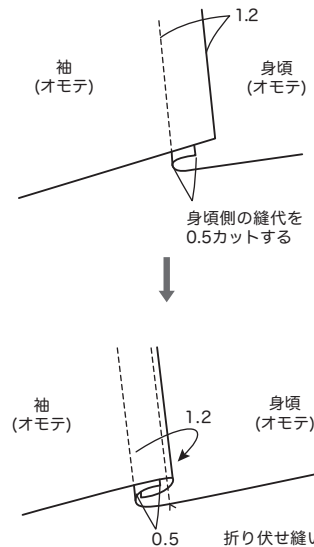


<作り方>

①袖と身頃に外表にして縫う。
この時にテープをはさむ(パターン参照)。
※テープ端(片側)は三つ折りステッチしておく。

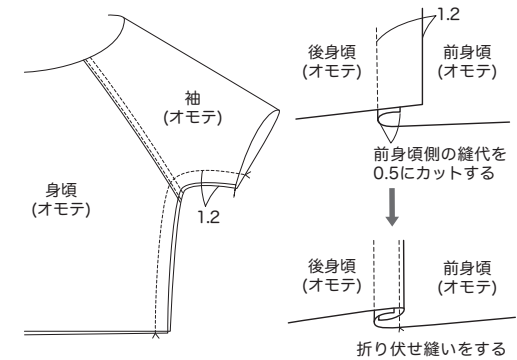


②身頃側の縫代だけを0.5cmにカットして、縫代を身頃側に倒して折り伏せ縫いにする。

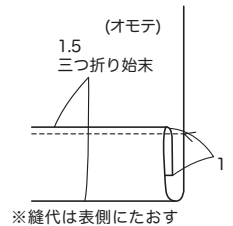


※折り伏せ縫いまたはバイアステープを縫い付けるときは、あらかじめしつけをしておく。

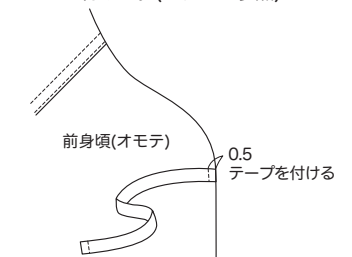
③身頃脇～袖下にかけて外表にして縫う。
(②と同様の折り伏せ縫い)



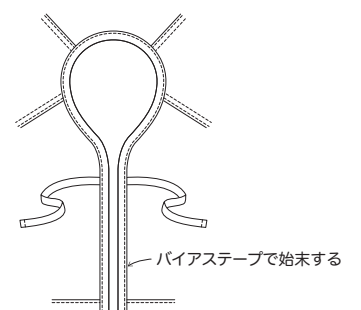
④袖と裾を三つ折りステッチ。



⑤前身頃端にテープを付ける。(パターン参照)



⑥端をバイアステープでくるむ。



背守り刺しゅうのベビー肌着

背守り(せまもり)について

「背守り」は赤ちゃんや子供の着物の背中に糸で付けられた印や小さな模様のことです。

昔の日本では「背中は魔物や邪気が入りやすい場所」と考えられ「背縫い」の無い子供の着物に縫い目や刺繍を入れました。縫い目の「目」が魔物をにらんで退散させる力があると考えられ、まだ幼く弱かった子供たちに対して「無事に育ってほしい」という家族の祈りが背守りの一針一針に込められています。

最近では伝統文化として見直され「大切な人への願いを込める刺しゅう」となり子供服だけでなく、バッグや身の回りの小物などにさりげなく施すワンポイント刺しゅうとして注目されています。

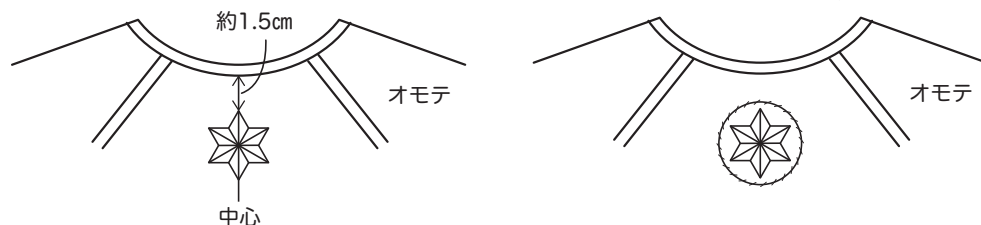
<ぬい方>

刺繍糸2〜3本どり。

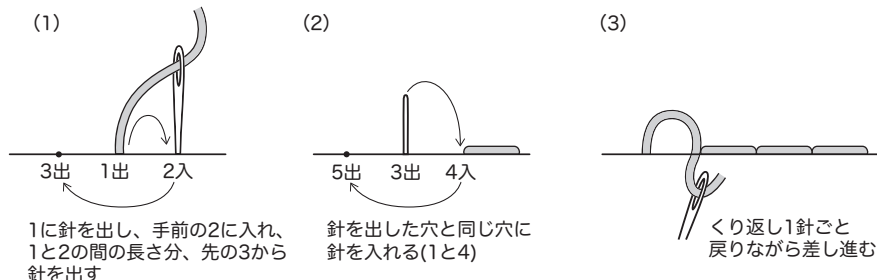
背縫いの代わりの意味があるため、後中心の襟から約1.5cm下あたりに小さな刺しゅうの模様や印を入れる。

モチーフのサイズは約3cmで刺しゅうする。(お好みでサイズは調整してください)

刺しゅう糸が肌に触れないよう、
共布に刺しゅうして、
アップリケ風に仕上げてよいです。



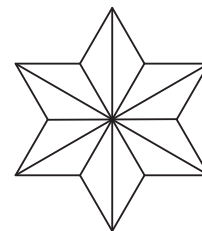
【バックステッチ】



背守りのモチーフ・図案

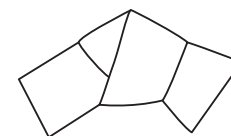
背守りには縁起の良い模様や意味を持つ形が使われます。

麻の葉



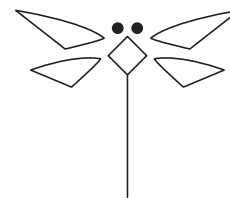
麻はとても成長が早く、真っ直ぐにすくすくと伸びる生命力の強い植物のため、子どもが健康に真っ直ぐ育つようにという強い願いが込められています。

結び目



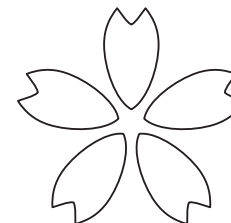
厄除け、ご縁を結ぶ、願いの成就のほか子どもの魂を守る力があると考えられています。

とんぼ



前に向かって飛び、後退しないことから「勝ち虫」と呼ばれて江戸時代には武家で好まれていました。

さくら



昔の人にとって桜は神聖な植物だったそうです。子供の背中に桜を刺繍することで、神様に見守ってほしいという気持ちが込められています。

<背守り刺しゅうのベビー肌着>

実物大型紙：後身頃

製図用紙に写してご利用ください。

A3サイズで印刷

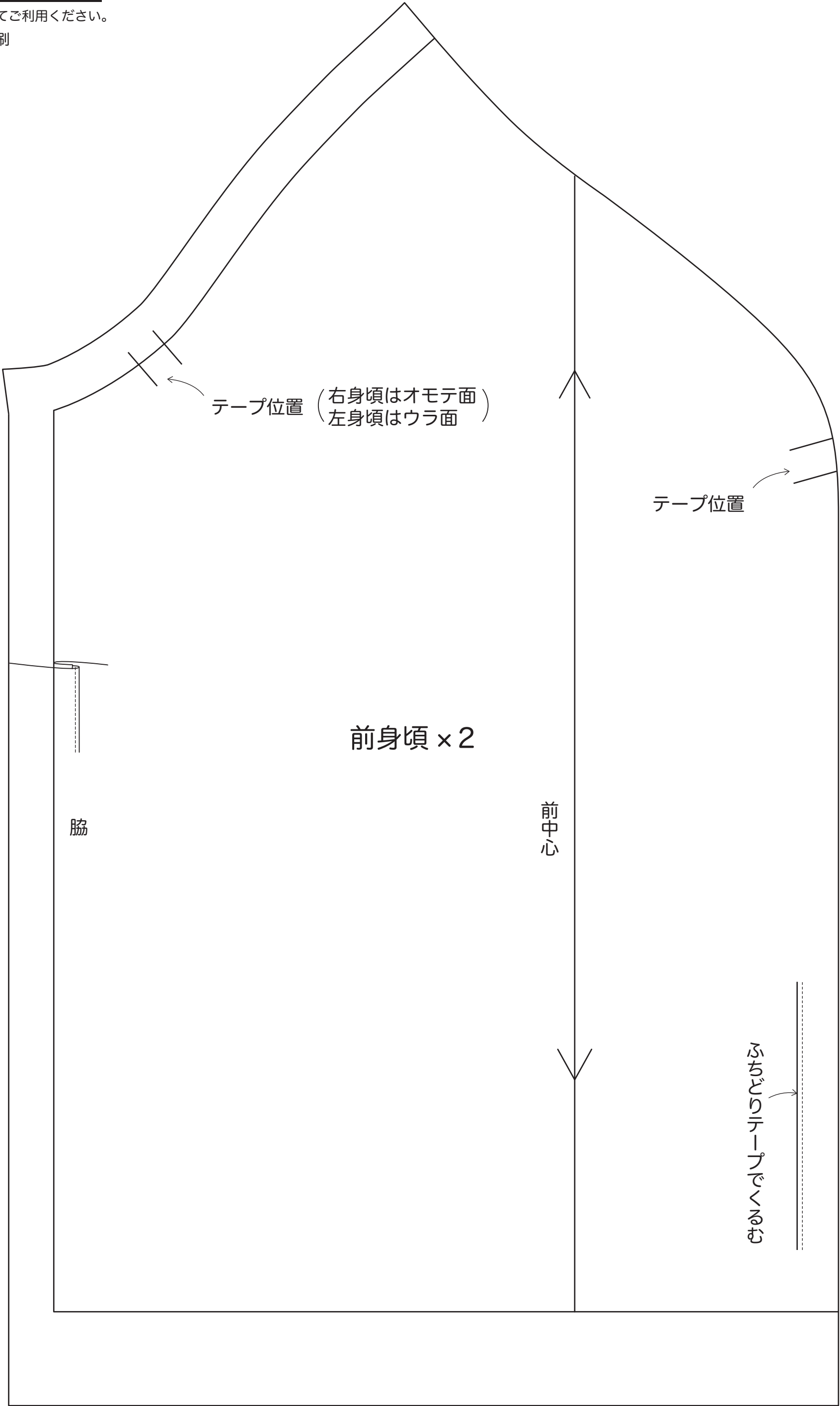


<背守り刺しゅうのベビー肌着>

実物大型紙：前身頃

製図用紙に写してご利用ください。

A3サイズで印刷



<背守り刺しゅうのベビー肌着>

実物大型紙：袖

製図用紙に写してご利用ください。

A3サイズで印刷

